公明新聞
発行所
公明党機関紙委員会
東京都新宿区南元町18
〒160-8521
電話 03-3353-0111
©公明党機関紙委員会 2018年

2018年
PR版

あなたの身近に公明党

「100万人訪問・調査」運動を展開

君原さん宅を訪問し、介護サービスの利用状況などを聞く
山口代表㊨＝4月1日　松山市

公明党は、全議員が地域の最前線を歩き、「子育て」「介護」「中小企業」「防災・減災」の四つをテーマにアンケートを行う「100万人訪問・調査」運動を積極的に展開。山口那津男代表の調査の模様を紹介するとともに、識者から寄せられた「期待の声」を掲載します。

子育て、介護、中小企業、防災・減災で
全議員が現場の声 聞く

「日常生活でお困りのことはありませんか」。山口那津男代表は松山市内で君原道子さん(73)宅を訪問し、介護のアンケート用紙を片手に状況などを丁寧に聞き取りました。

君原さんは約3年前に右足を骨折し、自宅の玄関と風呂場に手すりを設置。要支援1の認定を受け、送迎付きのリハビリ施設に1月から週1回通っています。介護現場での外国人の活躍について、君原さんは「人手が足りないから賛成です」と。保険料については「年金生活だから、もう少し安ければ」と答えました。

山口代表は、「こうしてほしいという要望があれば、どうぞ気軽に。それに応えられるように、私たちも頑張りますから」と握手を交わしました。

◇

今回の運動は、人口減少や少子高齢化など社会の変化を見据え、四つの重要な政策テーマについて、議員が「現場の声」を直接聞くのが狙いです。

調査期間は4月から6月までの3カ月間。取りまとめた結果は、党全体だけでなく、都道府県や市町村単位での政策立案などに生かす予定です。

また、ツイッターなどのSNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）も活用しつつ、運動を効果的に発信します。

身近に公明党がいることを示すことで、「大衆とともに」との立党精神を体現していきます。

2018年
4月8日付1面

期待します

民主主義の原点といえる活動

東北大学准教授
河村 和徳（かずのり）氏

政治家が地域に入って〝一人〟の声を聞き、行政に働き掛けて、その声を実現する。そして、結果を評価し新たな取り組みにつなげていく――。こうしたサイクルは民主主義の原点であり、今回の訪問・調査運動は、まさにそれに当たる活動だと高く評価しています。

国民にとって、政治に「声が届いた」という体験は、政治への信頼を生むだけでなく、民主主義を正しく理解する契機ともなります。その意味で、今回の運動は、国民の不安を煽り、支持を集めるポピュリズム（大衆迎合主義）の対極にあると言えるでしょう。

また、公明党が他党と違うのは、たとえ地方の小さな声でも、重要であれば党全体で議論され、全国の課題を克服するための政策になる点です。

アンケートを通じて、細かなニーズをつかむ意義は大きい。運動の成果に期待しています。

「100万人訪問・調査」から実現

ランドセルを軽く

工夫例 示し配慮を要請

学校に通う子どもたちの荷物を軽く――。文部科学省は6日、都道府県の教育委員会や私立学校事務主管課などに対し、児童生徒が登下校時に持ち運ぶ教科書、教材、学用品の重さや量に配慮するよう促す事務連絡を出した。

事務連絡では、家庭学習で使わない教材を学校に置いて帰る「置き勉」や、学期末における学習用具の計画的な持ち帰りなど、教育現場で実際に行われている工夫例を紹介。各学校に対し、これらを参考に対策を検討するよう求めている。

公明党は、今年4月から3カ月間にわたり実施した「100万人訪問・調査」運動の中で「中学生の通学バッグが重過ぎる」との相談を受けた金庭宜雄（こんばのぶお）・名古屋市議が、新妻ひでき参院議員と連携。さらに、参院文教科学委員会で質問の機会があった佐々木さやか参院議員が新妻氏から話を受け、6月に同委員会で林芳正文科相に対応策を求めるなど、連携プレーで通学における荷物の軽減に取り組んできた。

2018年
9月7日付2面

通常の「公明新聞」は日刊で、このPR版の2倍の大きさとなるブランケット判、8ページ建てです。毎週日曜日付の「日曜版」のみの購読も可能です。
＝4面に紙面構成の紹介

東日本大震災7年 「あの日」を胸に生きる

刻一刻と、紺青の海をだいだい色に染め上げながら、日輪が赤々と昇る。東日本大震災から7年を迎えた11日、東北の被災地は早朝から、鎮魂と復興への祈りに包まれた。

あの日、多くの命を奪った海。宮城県東松島市の野蒜海岸には、静かな波が寄せては返す。朝日に照らされて亡き人を思い、海へ向かって祈る女性の姿があった。

人々は、あの日の記憶を胸に、一歩、また一歩と明日へ歩み続ける。

2018年
3月12日付1面

あの日、多くの命が奪われた野蒜海岸では、赤々と昇る太陽に向かって祈りをささげる女性の姿があった＝3月11日　宮城・東松島市

西日本豪雨

最前線で被災者とともに

岡山・倉敷市真備町で現地災害対策本部

住まいの相談 迅速な対応

西日本豪雨を受けて公明党岡山県本部災害対策本部（本部長＝高橋英士県議）は、犠牲者51人、浸水面積1200㌶のとりわけ大きな被害が発生した倉敷市真備町地区の〝ど真ん中〟に現地災害対策本部（本部長＝森分敏明市議）を設置し、被災した住民に寄り添った支援を続けている。同対策本部の取り組みを追った。

「建て替えをするとなると、費用がどれくらいになるか……」。そう嘆息したのは倉敷市真備町地区に住む妹尾厚男さん(83)。資材置き場として利用していた家屋が浸水被害に遭い、今にも倒壊しそうな状況に。被災した家屋の片付けなどに追われる厚男さんに代わり、兄の諭さん(87)が市役所に何度も足を運び、窮状を訴えたが事態の進展は見られなかった。

諭さんが公明党岡山県本部の現地災害対策本部を訪れたのは20日。相談を受けた公明議員は、現場に駆け付け被害状況を確認。早急な対策が必要と感じ、市に掛け合った。その結果、応急処置として、家屋が倒れないようにするための、ついたて2本と危険を知らせるロープが27日に張られた。29日には台風12号が被災地などを襲ったが倒壊を免れ、諭さんと厚男さんは「ひとまずホッとした」と胸をなでおろした。

公明議員は家屋の建て替えに向けた相談などに引き続き当たっている。

2018年
7月31日付7面

現地災害対策本部で被災住民の相談に応える（手前左から）薮田尊典、新垣敦子の両倉敷市議ら＝7月28日　岡山・倉敷市真備町

こまやかな支援 隅々まで

北海道むかわ町で公明女性議員

町長が依頼 被災者の要望聞く

北海道地震

公明党の中野渡志穂北海道議と阿部裕美子石狩市議は25日、北海道むかわ町を訪れ、地震で被災した住民から要望を聞いた。東千吉町議が同行した。

この日の訪問は、同町の竹中喜之町長から「被害に遭った人たちの話に、親しく耳を傾けてほしい」との依頼を、中野渡道議が受けて実現。臨床発達心理士の資格を持つ中野渡道議と、防災士の阿部市議が、専門知識や経験をもとに応対した。

避難所となっている道の駅「むかわ四季の館」では、周辺住民の協力で救い出され、九死に一生を得た家族に話を聞いた。中野渡道議らは、「一日も早く生活が再建できるよう全力で取り組んでいく。こまやかな支援が行き渡るように、これからも〝一人の声〟に耳をそばだてていきたい」と語っている。

2018年
9月26日付1面

避難所で話を聞く（正面左2人目から）中野渡、阿部、東の各議員＝9月25日　北海道むかわ町

国交正常化提言50周年

対談 日中友好の絆(きずな) 未来まで

9月8日は、公明党創立者である創価学会の池田大作名誉会長（当時・会長）が、歴史的な「日中国交正常化提言」を発表してから50周年を迎えます。一方、先月12日は、日中平和友好条約の締結(ていけつ)40周年の節目でもありました。元駐中国大使で宮本アジア研究所代表の宮本雄二氏と、公明党の山口那津男代表が、両国友好に果たした公明党の役割と、未来への展望などについて語り合いました。

日中友好を巡る公明党の主な動き

1968年9月8日	創価学会の池田大作会長（当時）が「日中国交正常化提言」を発表
1971年6月28日	第1次党訪中団、周恩来首相と会談
1972年7月29日	党訪中団に周首相、国交正常化への中国側草案示す
9月29日	国交正常化が実現
1978年8月12日	「日中平和友好条約」が締結
2007年1月8日	党訪中団、胡錦濤(こきんとう)国家主席と会談
2010年12月15日	山口代表、習近平国家副主席（当時）と会談
2013年1月25日	山口代表、習総書記（当時）と会談
2015年10月15日	山口代表、習国家主席と会談
2017年12月1日	山口代表、習国家主席と会談
2018年8月12日	「日中平和友好条約」締結40周年
9月8日	「国交正常化提言」から50周年

公明党
山口那津男代表

元駐中国大使
宮本 雄二氏

公明は見事な〝メッセンジャー〟
党創立者の英断に深い敬意

宮本　山口代表　第2次世界大戦後、冷戦構造が進み、米国との関係を重視して中国敵視政策に傾く当時の日本にあって、中国との国交正常化を主張することは極めて危険なことでもありました。

しかし池田名誉会長は、両国の友好関係が世界の平和には必要だとの信念を貫き、1968年9月8日、日中国交正常化提言を世に問いました。その英断と並々ならぬ勇気、胆力(たんりょく)に、私は深い尊敬の念を抱(いだ)いています。

宮本雄二代表　中国の周恩来(しゅうおんらい)首相も、大衆に根差した創価学会、そして公明党に強い関心を示していました。国交回復が日本外交の最大の課題となる中、中国側からも水面下の接触があり、71年6月には党として初の訪中が実現しましたね。

山口　国交正常化までに3度の党訪中団を派遣しています。その間、周首相とも会談を重ね、国交樹立に向けた共同声明の原案や、さまざまな条件が示され、公明党はそのメモを日本政府に届けました。それをベースに72年9月29日、国交正常化が実現したのです。

宮本　当時の社会党をはじめとする野党が、政府・自民党との接点が希薄(きはく)な中で、自民党が動かなければ現実の政策は動かないとの立場だった公明党にしか、日中双方の〝メッセンジャー〟は担(にな)えませんでした。そうした背景もあって、中国側も公明党との関係を重視していました。そして、公明党は見事にそれに応(こた)えたのです。

山口　国交正常化が実現し、次の大きな目標は平和友好条約の締結でした。公明党は条約の進備段階でも毎年のように訪中団を送り、鄧小平(とうしょうへい)副首相ら要人と会談を重ね、平和友好条約の早期締結に向けた中国側の意向を日本政府に伝えるなど、日中双方の橋渡し役を果たしました。そして78年8月12日、日中平和友好条約が調印されました。

宮本　当時の記憶が鮮明(せんめい)によみがえってきました。

74年5月の池田名誉会長の初訪中時に、たまたま私も高島益郎(ますお)アジア局長のかばん持ちとして訪中していました。実はその際、名誉会長から条約に対する中国側の認識について外務省にアドバイスがあったのです。その年の11月から条約の予備交渉が始まるわけですが、それに向けて日本としても大事な心構えをすることができました。

山口　それは貴重なエピソードですね。74年12月の池田名誉会長と周首相との会談では、①両国の世々代々(せせだいだい)にわたる友好を築く②平和友好条約の締結を急ぐ――との認識で一致し、周首相からは「将来、中国が経済的に発展を遂(と)げても、超大国にはならない」との趣旨の発言がありました。

この立場は現在でも中国のリーダーに貫かれていると信じているし、今後も継承してもらいたいと期待しています。

2018年
9月2日付1面

党訪中団 要人と相次ぎ会談

汪全国政協主席(右)と握手を交わす山口代表＝9月6日　北京市内

公明党訪中団の山口代表は6日、北京市内で中国共産党中央政治局常務委員の汪洋(おうよう)中国人民政治協商会議全国委員会主席と会見しました。

山口代表は、習近平(しゅうきんぺい)国家主席に宛てた安倍晋三首相の親書を汪氏に手渡しました。汪氏は親書に謝意を述べ、習国家主席に早期に報告すると語りました。山口代表は、来年の習国家主席の訪日を要請。汪氏は深くうなずきながら「日中関係は正常な軌道(きどう)に乗った」との認識を示しました。

また、山口代表は「青少年など人の往来を盛んにし、次の世代に日中友好のバトンを渡すことが大切だ」と力説。汪氏は青少年交流の拡大に賛意を示し、日中関係発展の重要性を強調しました。

7日、山口代表は北京市内で、訪中を招へいした中国共産党対外連絡部（中連部）を訪問し、宋濤(そうとう)中連部長と会談しました。山口代表は、今回の招へいに対して謝意を表明。宋氏は「中国共産党として、両国の前向きな発展のために貢献したい」と応じました。

2018年
9月9日付1面

多彩で役立つ情報がいっぱい

公明新聞は多くの読者に支えられ、創刊から56年の歴史を歩んできました。日刊の政党機関紙として、一般紙の報道だけでは知ることのできない公明党の考え方、政策、議員や党員の活躍を、正確に、素早く伝えています。また、政治や経済の課題を読者目線で分かりやすく解説。暮らしに役立つ多彩な情報をはじめ、文化や芸能・スポーツ欄など魅力いっぱいです。

公明新聞 主な紙面構成

	月	火	水	木	金	土	日
1・2・3面	総合政治面	公明党や国会、一般のニュース、ひとこまマンガ、ニュース短信、タイムリーな解説、ルポなど			テレビや一般紙より公明党の考え方、政策が分かりやすく載っているヨネ！	だヨネ！	総合政治面「座標軸」、「ウイークリー公明」、「素顔」など
4面	読書	シニア	「解説ワイド」	暮らし	子ども	「土曜特集」	地方版
		識者インタビューや読者の声も楽しみ！ 読者投稿			イラストやマンガ付きの企画は分かりやすい！		
5面	経済	芸能・スポーツ	文化	芸能・スポーツ	文化	芸能・スポーツ	暮らし、川柳、読者投稿
	連載小説				幅広い年代でも楽しめる企画がいっぱい！		
6面	議員、党員	女性議員	地方議会	青年議員	地方議会		暮らし、「手筋教室」、クロスワードパズル
7面	地方議会	全国の公明党議員の活動や、各地の党活動などを紹介			地域の課題を掘り下げた特集や連載も読みごたえがあるわ！		文化、短歌、俳句、芸能・スポーツ
8面	テレビ・ラジオ番組表						

※紙面の都合により、掲載面、曜日などを変更することもあります

購読料
公明新聞1カ月1887円
日曜版のみ293円
（いずれも税込み）

▶イラストで明快な政治解説
▶幅広い世代が楽しめる企画
▶議員、党員の活躍を伝える

総合政治面である1、2、3面は、公明党の今の動き、一般のニュースをはじめ、ルポや識者インタビューなど、関心の高いテーマを分かりやすく掘り下げて解説しています。

4面は、公明党の実績を中心にイラストやマンガで紹介する「見せる企画」が人気。子どもからシニアまで、知って得する楽しい生活情報が満載です。5面は、連載小説や話題の映画、テレビ番組、音楽、舞台など文化・芸術のニュースも幅広く紹介。さまざまなスポーツ選手や人気女優のインタビューも評判です。

6、7面は、地方議員や党員、女性委員会、青年委員会に焦点を当て、公明党の日常活動や地域の実績を詳しく報じています。

日曜日付（日曜版）は、著名人や識者と公明党議員との対談・てい談企画、公明党の1週間の動きをコンパクトにまとめた「ウイークリー公明」が好評。話題の人が登場する「素顔」【別掲】、短歌、俳句、川柳の読者投稿作品の紹介、「クロスワードパズル」「プロが伝授　今夜のおかず」など、楽しめる内容が盛りだくさんです。

素顔 最近の掲載者

- ▷本庶　佑（ほんじょ たすく）（京都大学特別教授）
- ▷大坂なおみ（女子プロテニス選手）
- ▷藤井　聡太（プロ棋士）
- ▷今泉　忠明（動物学者）
- ▷羽賀　翔一（作家）
- ▷金井　宣茂（のりしげ）（宇宙飛行士）
- ▷増田　明美（ジャーナリスト）

好評の連載小説 銀閣の人

筆者
門井 慶喜氏

門井慶喜氏の時代小説『銀閣の人』が好評です。門井氏は、『銀河鉄道の父』で第158回（2017年度下半期）直木賞を受賞しています。挿絵（さしえ）は、歴史小説を中心に手掛け、16年に講談社出版文化賞を受賞した村田涼平氏です。

同小説は、室町幕府第8代将軍・足利義政が主人公。応仁（おうにん）の乱という争いの時代を生きながら東山文化を代表する銀閣を建てた義政の物語です。

公明新聞電子版

臨場感伝わる豊富なカラー写真
動画や追加写真、充実の独自コンテンツ
お気に入り記事を手軽に保存・共有

初月無料！

＜日刊＞　月額 1500円（税込み）
＜日曜版＞月額　250円（税込み）
▷請求書による銀行振込払いの「法人契約」も

お申し込みはコチラ ▶

公明新聞電子版コールセンター 0120-350500（平日9時～17時）